

# 保小連携だより

NO. 11

本校 研究テーマ「人とかがわる力を育み、自ら学びに向かう子どもの育成 ～学びをつなげる保小中連携～」  
【生活する力】に関する保育所の取り組み

①1期(4~5月)

②2期(6~8月)

③3期(9~12月)

④4期(1~3月)

スタンダードから	保育所の年間指導計画から	年長児の実態	具体的な取り組み
<p><b>運動</b></p> <p>戸外でしっかり体を動かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと競い合ったり、ルールを工夫したりして遊ぶ。</li> <li>遊具や用具の使い方を守りながら、様々な遊びに挑戦する。</li> </ul> 	<p>①安全に気をつけて遊具や用具を正しく使って遊ぶ。</p> <p>③遊びの楽しさが分かる、保育者や友達と一緒にルールを作ったり、守ったりして遊ぶ。</p> <p>③様々な運動器具や用具を使い、体を動かして遊んだり、友だちと一緒に工夫して遊びを展開したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に遊ぶことは身につけてきているが、縄跳びなど危ない使い方をしていることもある。</li> <li>お互いにルールを作ることで、仲良く遊べることを実感しながら遊びを楽しんでいる。</li> <li>ドッジボールを楽しむ中で、当てられたら出るというルールを守ることができなかった子ども、遊びを進めていくうちに我慢したり妥協したりして、ルールに従うことができるようになってきている。</li> <li>平均台、マット、大太鼓、ボール、縄跳びなどいろいろな用具を使い、遊びを楽しんでいる。</li> <li>ボールを使った集団行動の練習に取り組んでいる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>危険な使い方をしている時はその都度声をかけて気づかせるようにする。</li> <li>遊びの中でルールを守りにくい時は、その子の気持ちに寄り添いながら正しいルールを伝え、守れた時を見逃さずに認め、褒めるようにする。</li> <li>子ども同士が互いに納得するルールが作り出せるように、子どもの発達を十分に考慮する。</li> <li>日頃からグループで相談して物事を決めることを取り入れ、子どもたち一人一人が自分の思いを伝えられる場を作る。</li> <li>鉄棒遊びや縄跳びなどに興味をもって取り組んでいる子を認め、他の子にも知らせていき、より多くの子どもが興味をもてるように促していく。</li> <li>また、一日のうちで子どもたちみんなが一つの遊びに取り組める時間を作り、多様な運動経験を積むことができるようにする。</li> </ul> 
<p><b>生活習慣</b></p> <p>生活に必要な活動を自ら行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>早寝、早起き、朝ご飯などの生活リズムを身に付ける。</li> <li>身の回りのことを自分でしようとする。</li> </ul> 	<p>①自分の持ち物を整理したり、身近なものを大切に扱ったりする。</p> <p>②気温の変化を感じ、自分で衣服の調節をしたり、体や身の回りを清潔にしたりする。</p> <p>③適切な休息をとり、心身の疲れを癒す。</p> <p>④食前の手洗いや食後の歯磨き、うがいが気持ちよいものとして身につけ、健康的に生活することができるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の持ち物をロッカーの中に整理したり、遊びに使った物を決まった所に片付けたりすることができている。周りに気を取られて、時間がかかる子どももいる。</li> <li>自分のロッカーの中を整理することができにくい子どもが多い。</li> <li>絵本の破れたところをテープで直す姿が見られる。</li> <li>暑い時はスモックを脱ぐ、寒い時は着るなど、自分で調節している。</li> <li>遊んだ後、手足が汚れたら洗ったり服を着替えたりすることができている。</li> <li>5月までは、午睡(昼寝)の時間を取り、体を休めている。</li> <li>次の活動を一番にしたい気持ち強い子どもが多く、きれいに手洗い、うがいができにくい子どもが多い。</li> <li>比較的に女児は丁寧に手洗いやうがいなどをやるが、時間がかかる子どもが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持ち物を片づけやすいように場所を設定したり、どのようにすると早く片づけられるかというやり方を伝えたりする。</li> <li>きちんと片付けたり整理したりすることができた子どもを褒め、みんなに紹介する。</li> <li>晴れた日は、登所した子から外に出るようにするなどして、部屋の中が騒がしくならないようにする。</li> <li>外から部屋へ入るときや、製作などで体が汚れた後には、声をかけきれいにさせ、清潔にすることの心地よさを感じさせるようにする。</li> <li>適度に自由遊びの時間を取り、心がほぐれる時間を作るようにする。</li> <li>活動の後は、①トイレ②手洗い③うがい④お茶の順番に動く習慣を徹底している。</li> <li>その都度、声をかけて手洗い・うがい・歯磨きの大切さに気づかせるようにしている。</li> <li>歯磨きは、みんなで一緒に数を数えながら、歯磨きをして順番にうがいをするようにする。</li> </ul>
<p><b>安全</b></p> <p>安全に気をつけて行動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きまりや約束の大切さに気づき、守ろうとする。</li> <li>交通ルールを知り、安全に行動しようとする。</li> </ul>	<p>①道路の歩き方、横断歩道の渡り方を知り、散歩の時などルールを守って安全に行動する。</p> <p>②危険なものに近寄らない、危険な場所で遊ばないなど、安全に気をつけて遊ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩や遠足などの園外保育では、小さい園児と手をつないで、道路の右側を歩いている。その際、小さい園児には危険ではない方を歩かせてあげたり、声をかけてあげたりしている。</li> <li>部屋の中や廊下で走らずに過ごしたり、草むらには近づかないように遊んだりして、安全に気をつけて遊ぶことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通指導を月一回行い、道路の横断などについて一人ずつ見て交通ルールが身についているか確認する。</li> <li>散歩や遠足で通う道には横断歩道がないので、紙芝居を使って、横断歩道の渡り方を教えるようにする。</li> <li>年一回の交通教室を親子で行い、交通ルールについて再確認する。</li> <li>危険な行動があったり、危険な場所を把握したりした時には、その都度声をかけて気づかせるようにする。</li> </ul>
<p><b>食育</b></p> <p>先生や友だちと一緒に食べることを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>好き嫌いをせず、食事のマナーを守って食べる。</li> </ul>  <p>・食事決められた時間内に食べる。</p>	<p>①健康に関心を持ち、食事の大切さを知り、友達と一緒に楽しんで食事をする。</p> <p>①野菜作りを経験し、生長に興味・関心を示し世話をする。</p> <p>②野菜などの栽培や収穫を通して、「食」への関心をもつ。</p> <p>②食事の仕方が身につく。</p> <p>③体と食べ物に関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食欲旺盛な子どもが多いが、偏食の多い子や食の細い子がおり、時間がかかったり嘔吐したりすることがある。</li> <li>「言われるから食べる」「嫌いなものは食べない」という子どもが数人いる。</li> <li>野菜作りやクッキングを経験することにより、食べることへの関心をもっている。</li> <li>クッキングで料理の仕方を経験することによって、料理に対する関心が高まり、家庭でお手伝いをする子どもが増えた。</li> <li>肘をういたり食器に手を添えずに食べたりして、姿勢のよくない子どもがいる。</li> <li>よく噛まずに食べている子どももいる。</li> <li>当番の子が食器や箸、お茶などを配っている。</li> <li>2月からは、一人ずつお盆を持って配膳に並び、自分の机まで運んでいる。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>時計の針で目標時間を伝え、時間内に食べるように励ましていく。</li> <li>友だちと一緒に食べる楽しさ、食べ物への関心、命をもらっている感謝、料理を作ってもらったことへの感謝など、食に関する学びができるようにする。</li> <li>野菜作りやクッキングなど保育者も一緒に楽しむことで食べることへの関心をもてるようにする。</li> <li>親子で料理を楽しむことができるように、クッキングでの様子を保護者にも伝え、関心をもってもらうようにする。</li> <li>小さいクラスの子どもたちに自分たちが作った料理を喜んで食べてもらうことで、料理することの楽しさや喜びを実感させる。</li> <li>姿勢について自にういたら、その場で声をかけるようにする。</li> <li>しっかり噛んで食べるように促していく。</li> <li>箸の正しい持ち方を日々の給食時間を活用しながら、定着させるようにする。</li> </ul> 